

ロボット好きの学び舎

ロボット創造館

第1回



かどた 門田 和雄

ここロボット創造館は、全国からロボット好きの若者が集まる中高一貫の中等教育学校です。この学校ではロボットを教育課程の中心に据え、機械や電気に関する知識や技能、また高度な工作技術を学ぶことにより、21世紀に活躍できるロボット技術者の育成を目指しています。もちろん、技術系の教科だけでなく、理科や数学、英語、国語、歴史の授業もあり、また健康な体を維持するためにすべての生徒が運動部に所属しています。

この学校にあるさまざまなイベントの中で、生徒たちが一番楽しみにしているのが毎年学内で開催されているさまざまなロボットコンテストです。これから、そんなロボット好きの学び舎であるロボット創造館での楽しいロボット製作の様子を紹介してゆきます。

1 はじまり

2003年4月7日、鉄腕アトムの日でもある記念すべき日に、ここロボット創造館では第5回目の入学式が開催されています。東京都港区芝浦にあるこの学校には、今年もロボット好きの新生が128名入学してきました。最近各地で増えている中高一貫校の先駆けとして、1999年に開校したこの学校もこれでようやく5学年すべての生徒が揃うことになります。

新生の代表として、誓いの言葉を述べることになっている小栗創太は、幼い頃からレゴブロックやプラモデル、ミニ四駆など、もの作り系の遊びはほとんど制覇し、意気込んでこの学校に入ってきました。この学校で5年間、ロボットを中心として徹底的に勉学に励もうと思っています。また、運動部の活動では陸上部に入る予定です。

なぜ彼が新生代表として誓いの言葉を述べるようになったのかというと、入学時の成績が一番だったから...、という理由ではありません。この学校に入るためには、特別厳しい選抜があるのではなく、近所の小学校を中心にして、希望する生徒はほぼ全員が入学できます。この学校の1学年は1クラス32名で4クラスの合計128名です。実は入学希望者が定員を超えたのは

今年が初めてでした。ロボットをカリキュラムの中心に据えた中高一貫の学校ということで開校したときから注目されたロボット創造館ですが、もの作り離れ、理工系離れが言われて久しい現在、生徒はなかなか集まらなかったのです。しかし、近年のロボフェスタやロボカップなどのロボットブームとともに、次第に入学希望者が増えてきました。定員に満たない場合でも、面接と作文による入学試験は行っています。今年からはじめて定員を上回ったため、実質的に選抜試験になり、17名の不合格者を出さなければなりません。面接では自分がこれまでに作ったものを持参して説明することが求められます。今年の面接で、目立ったものを持ってきたのが、創太だったのです。

誓いの言葉～「桜咲くこの頃、私たちはこのロボット創造館に入学することができました。私たちはこの素晴らしい環境の中で、ロボットを中心としたカリキュラムで学ぶことのできる学校生活をとても楽しみにしています。この学校での5年間はロボットに関する知識や技能はもちろん、語学や歴史など幅広い教養を身に付けると共に、スポーツで体を鍛え、将来優秀なロボット技術者になるための土台を築きたいと思います。しかし、新しい生活には期待と同じくらいの不安もある私たちです。先生

方、先輩方には、さまざまな面でご指導・ご援助の程よろしくお願いいいたします。2003年4月7日 新生代表 小栗創太」

ロボット創造館の大講堂であるここ創新堂に大きな拍手が響き渡ります。創太は大仕事を無事に終え、ホッとしながら壇上をおりてきました。実はこの創新堂は、毎年開催されているさまざまな学内ロボコンの舞台でもあります。入学後、すぐに開催される新生歓迎ロボコンで、創太はまたこの舞台に立つこととなりますが、果たしてそのことを本人は知っているのかどうか...

申し遅れましたが、創太が面接のときに持ってきたものは、他の生徒たちが格好のよい自動車のプラモデルや、チューンナップされたミニ四駆などであったのに対して、大きな丸い砥石とフライパン。そして、片手には卵を持っています。面接官に説明を求められると創太は流暢に説明をはじめました。

「これは自動目玉焼きロボットです。目覚まし時計が鳴ると、この砥石が回転を始めて卵の殻を割ります。そして、卵の中身は電熱器で温められたフライパンの上に落ちます。夏休みから、ずっと作っているのですが、なかなか難しく、まだ完成していません。でも、この作業を通してもの作りにますます興味をもち、ここロボット創